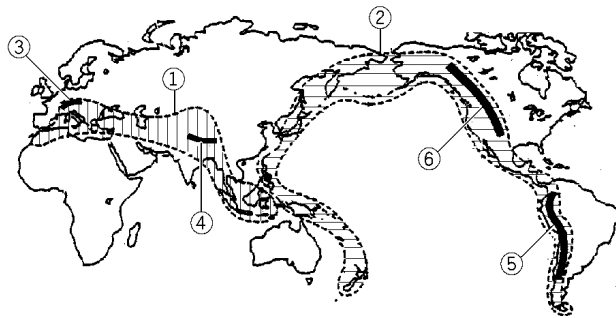


第 8 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.01
	日本の自然			

【問題 1】

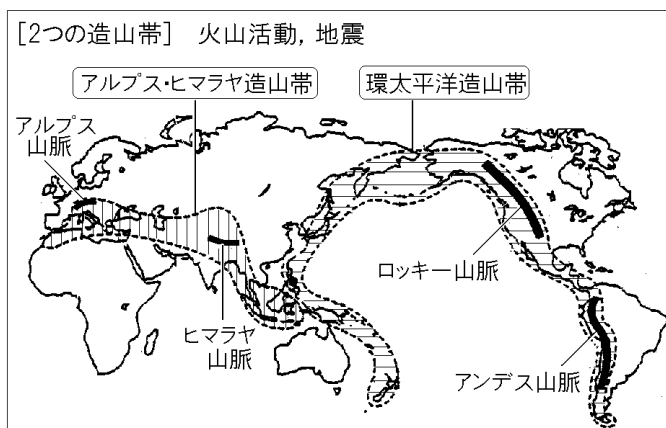
下の世界地図で、①、②の造山帯、③～⑥の山脈の名前を書け。



【解答欄】

① アルプス・ヒマラヤ造山帯	② 環太平洋造山帯	③ アルプス山脈
④ ヒマラヤ山脈	⑤ アンデス山脈	⑥ ロッキー山脈

【解説】



世界の地形は高くてけわしい山々がつらなる造山帯と、大陸に広がる平らな地形(安定大陸)に、大きく 2 つに分けることができる。

地球の表面は十数枚のプレートとよばれる岩盤におおわれており、それぞれのプレートは動いている。造山帯付近ではプレートどうしがぶつかるため、地面の隆起や沈降といった大地の動きがさかんで、一方のプレートが持ち上げられて、高い山脈がつくられる。また、しばしば地震がおこり、火山の活動も活発である。世界には、高くてけわしい 2 つの大きな造山帯がある。

環太平洋造山帯は、アンデス山脈－ロッキー山脈－千島列島－日本列島－フィリピン－ニューギニア－ニュージーランド と太平洋を取りまいている。

アルプス・ヒマラヤ造山帯は、アルプス山脈－ヒマラヤ山脈－インドネシアとつながっている。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 日本が含まれる造山帯の名前を書け。
 (2) (1)の造山帯に属する山脈を、次から 1 つ選べ。

[アルプス山脈 ウラル山脈 ヒマラヤ山脈 ロッキー山脈]

[解答欄]

(1) 環太平洋造山帯	(2) ロッキー山脈
-------------	------------

[問題 3]

日本はプレートどうしの境目に位置する国である。下のア～オは、そのことが日本に与える影響について述べている。正しいものを 2 つ選べ。

- ア 火山は少なく、火山噴火による被害などは世界的にみても少ない地域である。
 イ 多くの地震が発生するが、その多くが地上で起こるため、津波の発生はない。
 ウ 日本各地に温泉がわき出ており、それらは貴重な観光資源として活用されている。
 エ 火山活動によってつくられた鉱石は採掘され、さまざまに利用されている。
 オ マグマによって熱せられた地下水を利用した地熱発電が増加してきている。

[解答欄]

ウ、オ

[解説]

プレートどうしがぶつかりあう造山帯付近では、美しい風景とともに温泉や湖などの観光資源が多く、発電に利用される地熱にもめぐまれている。

[問題 4]

ヒマラヤ山脈の山頂部付近から、アンモナイトなどの貝やさんごの化石が出てくるのはなぜか。
 「インド」の語句を使って説明せよ。

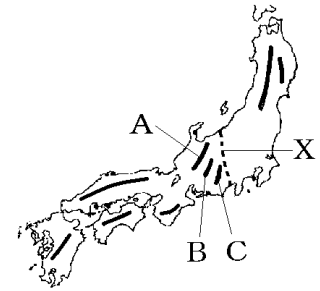
[解答欄]

ヒマラヤ山脈のあるあたりは 1 億年前は海であったが、ユーラシア大陸に今のインドの大地が衝突した結果、地層がもち上げられ現在のヒマラヤ山脈とチベット高原が誕生したから。
--

[問題 5]

次の各問いに答えよ。

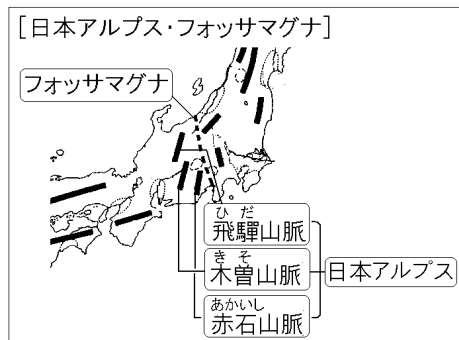
- (1) 右図の A、B、C は 3000 メートル前後の山がそびえ、日本アルプスとよばれている。B の山脈名を書け。
- (2) 右図の X は、大きな地溝帯の西側部分を示している。
この地溝帯の名前を答えよ。
- (3) 日本の国土に占める山地の割合を、次の[]から 1 つ選べ。
[4 分の 1 2 分の 1 4 分の 3 3 分の 2]



[解答欄]

(1) 木曾山脈	(2) フォッサマグナ	(3) 4 分の 3
----------	-------------	------------

[解説]



日本列島は環太平洋造山帯に属し、山地と丘陵地の面積は国土の **4 分の 3** に達する。

東北地方では、奥羽山脈のように山脈・山地は**南北**に走っている。

本州の中央部には、**飛騨山脈**、**木曾山脈**、**赤石山脈**があり、3000 メートル前後の山がそびえ、**日本アルプス**とよばれている。

その東側には、新潟県と静岡県を結ぶ**フォッサマグナ**という帯状のくぼ地がある。

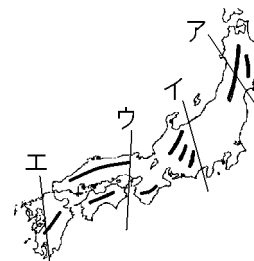
日本アルプスやフォッサマグナを境に、山脈・山地は向きを変え、西南日本では**東西**方向に走っている。

[問題 6]

日本を東西に分けるフォッサマグナを地図中のア～エから選べ。

[解答欄]

イ



[問題 7]

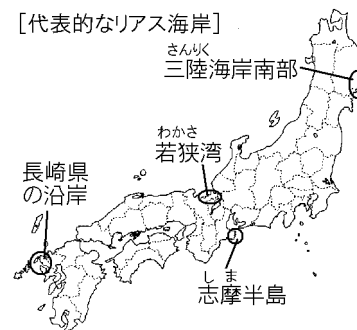
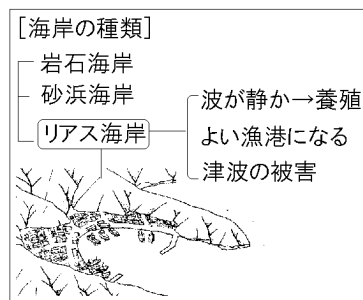
次の各問いに答えよ。

- (1) 岩場ががけのように切り立った海岸を何というか。
- (2) 出入りの少ない、砂の多い海岸を何というか。
- (3) 三陸海岸の南半分などに見られる出入りの多い海岸を何というか。

[解答欄]

(1) 岩石海岸	(2) 砂浜海岸	(3) リアス海岸
----------	----------	-----------

[解説]



日本の海岸は変化に富んでいる。海岸には、岩場ががけのように切り立った**岩石海岸**と、一面砂におおわれた**砂浜海岸**がある。

砂浜海岸には、鳥取砂丘や新潟砂丘のように砂丘が発達しているところもある。

三陸海岸や志摩半島には、海岸線が複雑な**リアス海岸**が見られる。リアス海岸は、もともと山地の谷であった部分に海水が入りこんでできた海岸線である。

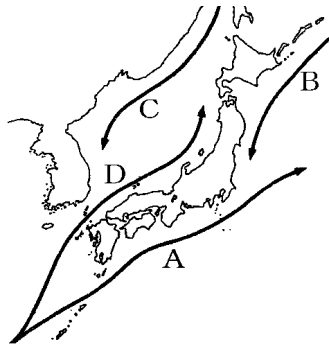
湾の水深が深いので船が入りやすく、**港(漁港など)**が発達しやすい。湾内は波が静かなので、**魚の養殖場として利用される**こともある。

しかし、**津波**が押し寄せてきた場合、入り江がせまくなるにつれて波の高さが高くなるので被害が大きくなる。

2011年3月11日、国内の観測史上最大のマグニチュード9.0の東日本大震災があり、三陸海岸など東北地方の太平洋岸を大津波がおそい、壊滅的な被害をもたらした。

[問題 8]

次の各問いに答えよ。

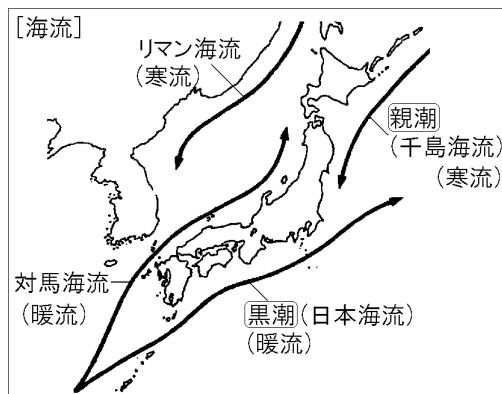


- (1) 地図中の A～D の海流名を答えよ。
 (2) まわりの海水よりも水温が低い海流を何というか。

[解答欄]

(1)A 黒潮(日本海流)	B 親潮(千島海流)	C リマン海流	D 対馬海流	(2) 寒流
---------------	------------	---------	--------	--------

[解説]



日本列島のまわりの海を流れる海流には、南から北へ流れる暖流と北から南へ流れる寒流がある。

暖流としては、黒潮(日本海流)と黒潮から分かれた対馬海流がある。

寒流としては、親潮(千島海流)とリマン海流がある。

東日本の太平洋沖は、黒潮(日本海流)と千島列島から南下してくる親潮(千島海流)がぶつかる潮目となっており、豊かな漁場となっている。